「人知をはるかに超える愛」
エフェソの信徒への手紙 3 章 14－21 節

パウロはこう祈っています。「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように」（16－17 節）。

私たちが、何に根ざし、何の上に立っているかによって、私たちの人生は変わってきます。けれども、私たちが「愛にしっかりと立つ」ことは、聖書を勉強したからといって出来るものではありません。私たちが努力して頑張れば立てる、というものでもありません。まさに神さまが、私たちの心を変えてくださるのでなければ成り立たないことです。私たちの心の内にキリストを住まわせてくださるのでなければ、そのような生活は成り立たないのです。ですから、祈り求めるのです。心にキリストを住まわせてくださるように、聖霊の働きを祈り求めるのです。神さまが、私たちの内なる人を強め、成長させてくださることを祈り求めるのです。

また、パウロはこうも祈ります。「また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように」（18－19 節）。

「愛にしっかりと立つ者」となることは、愛されていることを知るということと不可分の関係にあります。愛されていることが分からない人は、愛することはできないからです。また、逆に愛を基として生活することなくして、キリストの愛を知ることもできません。ですからパウロは「愛に根ざし、愛にしっかりと立つものとしてくださるように」と祈るだけではなく、「キリストの愛を知るようになるように」と祈るのです。

そのキリストの愛については、「人の知識をはるかに超える愛」とあります。私たち人間は、神さまの愛を知り尽くすことはできません。神さまが私たちのためにどれ程のことをしてくださっているのか、私たちは知りません。神さまに背き続け、裏切り続ける私たち。そのことに神さまがどれ程心を痛まれているのか、私たちは知りません。しかし、そんな私たちをなおも愛し続けてくださる。それがどれ程の愛なのか、私たちは知りません。この愛は、私たちの知識や思いを遥かに超えています。そのような方の愛を知るというのですから、それは本来あり得ないことです。ですから、そのあり得ないことが起こるためには、神の力がそこに働かなくてはなりません。それゆえ、キリストの愛が分かるというのは、御力のみが成し得る奇跡なのです。

主イエス・キリストの愛。それは広く、長く、高く、深い愛です。それゆえに、パウロは確信を持って言うのです。主イエスの愛の外側に置かれている人など、一人もいない。主イエスが訪ねて行かれないような場所は、どこにもないと。

一人の人を救うために、どこまでも探し求める広さ。いつまでも忍耐して待ち続ける長さ。天の極みをも越える気高さ。陰府にまで下られる深さ。それらすべてが、私たちの知識を遥かに超えています。それが、「主イエス・キリストの愛だ」というのです。神さまには、無限の愛が満ち満ちています。この無限の愛を、自分のものとしてしっかりと握ることが出来るよう、聖霊が与えられることを祈り求める一週間でありたいと願います。